

こんしゅう しお
今週のことば「塩」

せいしょ ふくいんしょ
《聖書》マタイによる福音書 5:13-16

しお
塩

たとえ話の中で「塩」が使われています。ですが、このたとえ話は現代の私たちにも共通した話です。日本では食生活で特につけものが一番関係しています。さらに、葬式の時に家に入る前に踏んで入るため清めの塩がくばられたり、相撲の時にしきる前に塩をまいて清めたり、いやな人が帰った後に玄関に塩をまく習慣もあります。イエスの時代の人々が全く同じような習慣を持っていたわけではありませんが、塩が何らかの意味で清めのため使われていた事がわかります。

しかし、ただ清めるだけではなく、塩が味の変わらぬものとして、マルコ9:50では、「自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい」というイエスの言葉が伝えられています。これは変わらない友情のしるしとして、塩が使われていた事を示しています。

しゃ やく わり
キリスト者の役割

でし やくわり いま しゃかい なか
イエスの弟子の役割は、今の社会の中

たいせつ しお あじ
でも大切です。塩がすべてのものに味を付けるように、イエスの弟子はすべての人の価値を見いだし、どんな人間にも打ちがある事を示す事ができます。

いま しゃかい あたま ひと て
今の社会では、頭のよい人とか、手の早い人とかが尊敬されて、あまり頭のよくない人とか、手が遅い人とか、身体の不自由な人はじゃまものあつかいされてしまいます。イエスの弟子はこのような、社会の中であまり必要とされず、じゃまものあつかいされている人一人一人に価値があるを見いだす役割を持っていました。これはイエスが一番大切にしていた事です。

じ だい ひとびと つみびと
イエスはその時代の人々から罪人とけいべつされていた人々の中にこそ值打ちがある事を見いだしました。そして、むしろその時代の支配者や、えらい地位についていた人々には値打ちがないと主張しました。

でし おな やくわり あた
イエスの弟子にも同じ役割が与えられています。今の社会の中で大切にされている価値ではなく、一人一人の人間の持っている価値を大切にし、それを守り育てていく役割があります。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第5主日A年（滝野）